

東洋文庫所蔵本に押捺された蔵書印について（十九）

—公家・華族の蔵書印—

中善寺 慎

既刊連載目次

- 一 朝鮮本に押捺された朝鮮の蔵書家の蔵書印 書報35号
- 二 僧侶・寺院の蔵書印、附神官・神社の蔵書印（上） 書報36号
- 三 僧侶・寺院の蔵書印、附神官・神社の蔵書印（下） 書報37号
- 四 国学者の蔵書印（上） 書報38号
- 五 国学者の蔵書印（下） 書報39号
- 六 漢学者・漢詩人の蔵書印 書報40号
- 七 学校・教育機関の蔵書印 書報41号
- 八 医家・本草家の蔵書印 書報42号

- 九 大名・藩主とその家の蔵書印
書報43号
- 十 幕臣・藩士の蔵書印
書報44号
- 十一 戯作者・操觚者・新聞社の蔵書印
書報45号
- 十二 商賈・実業家・企業の蔵書印
書報46号
- 十三 近代の学者・教授の蔵書印
書報47号
- 十四 図書館・博物館とその周辺の蔵書印
書報48号
- 十五 政治家・官僚の蔵書印
書報49号
- 十六 欧米人の蔵書印
書報50号
- 十七 歌人・俳人・詩人の蔵書印
書報51号
- 十八 植物学者の蔵書印
書報52号

凡 例

- ・ 印影は縮尺任意の単色写真である。
 - ・ 印文の縦の寸法をミリメートルの数字で掲げた。
 - ・ 複数の資料に該当蔵書印を見い出せるものは、印影を採集した資料名に*印を付した。
 - ・ 資料名につづけて、請求記号を丸括弧に包んで付した。
 - ・ 蔵書家の伝記などは主として次の資料に依った。
 - 市古貞次「ほか」編『国書人名辞典』
 - 井上宗雄「ほか」編『日本古典籍書誌学辞典』
 - 国立国会図書館編『人と蔵書と蔵書印』
 - 平凡社編『日本人名大事典』
 - 橋本政宣編『公家事典』
- ・ 配列は、印記所有者のよみの五十音順とした。

花山院常雅（一七〇〇—一七七一）

江戸時代中期の公卿。元禄十三年（一七〇〇）権大納言花山院持実の男に生まれる。本姓は藤原。名は常雅。正徳二年（一七二二）従三位。享保二十一年（一七三六）内大臣。延享四年（一七四七）従一位となり、寛延二年（一七四九）右大臣に進む。和学のみならず漢学にも通じ古義学に親しんだ。詩文に秀で、蔵書家でもある。明和八年（一七七二）没。墓は京都十輪寺。

花山院家は藤原氏北家花山院流の嫡流。家格は精華。内々の家。平安時代後期の関白藤原師実の第二子家忠を始祖とする。四箇の大事・有識故実・雅楽（笙・筆道）を家職とした。一条家の家礼。江戸時代の家禄は七百五十石。明治十七年（一八八四）忠遠のとき、授爵内規により侯爵を授けられた。

〔華山蔵書〕（26）

〔唐太宗哀冊〕（II-16-C-185-1）

〔華山蔵書之印〕（34）

* 『石鏡山房四書説総統』（I-18-A-1-10）

〔唐太宗哀冊〕（II-16-C-185-1）

〔大明会典』（XI-31-A-1-b-184）





菊亭家

公家。藤原氏北家閑院流西園寺家の庶流で、はじめ今出川家を称し別号を菊亭としていたが、明治維新後、鷹司家から入った修季が正式に家名を菊亭に改めた。家格は精華。内々の家。太政大臣従一位西園寺実兼の四男兼季を始祖とする。四箇の大事・有識故実・雅楽（琵琶）を家職とした。一条家の家礼。江戸時代の家禄は一千三百五十五石余。明治十七年（一八八四）修季のとき、授爵内規により侯爵を授けられた。菩提所は京都下京本国寺。伝世の典籍文書の一部が京都大学付属図書館に寄託され、菊亭文庫として現存する。掲出印は蔵版印。

「菊亭殿御藏板」（60） 『大日本国細図』（XI―五―N―10）



岸和田藩岡部家

和泉国岸和田に藩庁を置く譜代大名。駿河国志太郡岡部を領し岡部氏を称したのが祖。正綱のとき徳川家康に仕え、その子長盛が下総山崎を賦与される。その後、丹波亀山・同福知山・美濃大垣・播磨竜野・摂津高槻と転封を重ね、寛永十七年（一六四〇）宣勝のとき和泉岸和田六万石。のち分知により五万三千石となり、以後明治初年まで十三代二百三十年続いた。明治四年（一八七一）廢藩置県により岸和田県となり、堺県に統合されたのち大阪府の管轄に入る。岡部家は、明治十七年長職のとき、子爵を授けられた。

藩校講習館は嘉永五年（一八五二）の創設。再建された岸和田城天守閣に昭和四十五年（一九七〇）開館した市立郷土資料館が岡部家関係資料を収蔵する。

「岸藩文庫」(45) 『尺木堂網鑑易知録』(II-二一八〇七)



佐倉藩堀田家

下総国印旛郡佐倉に藩庁を置いた譜代大名。堀田家はもと尾張の出身。寛永十九年（一六四二）正盛が佐倉藩主となるが、跡を継いだ正信のとき改易。正盛三男の正俊は天和二年（一六八二）下総国古河の領主。出羽山形・陸奥福島などに転封ののち、延享三年（一七四六）正亮のとき佐倉に入封する。江戸時代前期の佐倉は藩主の移動が激しかったが、以降は堀田氏の所領として定着した。表高十一万石。帝鑑問詰。幕末期の藩主正睦は幕府老中として著名であるが、藩校を整備するなど学芸振興を伴う幅広い藩政改革を実施し、成功を収めている。明治四年（一八七二）廢藩置県により佐倉県となり、印旛県に編入されたのち、木更津県と合併して千葉県となる。堀田家は、明治十七年（一八八四）正倫のとき、伯爵を授けられた。

藩校成徳書院の旧蔵書は、多くが千葉県立佐倉高校に襲蔵される。藩政史料は、佐倉市鎗木町の佐倉厚生園に所蔵される。

「佐倉文庫」(30)

『柳文』(IV-11B-182-183)



佐野常民（一八三三—一九〇二）

幕末明治期の藩士、政治家。文政五年（一八二三）肥前国佐賀藩士下村充賛の五男として佐賀郡早津江に生まれる。姓は藤原。名は常民。通称は栄寿のち栄寿左衛門。天保三年（一八三二）藩医佐野常徴の養子となる。藩校弘道館に学び英才の誉れ高く、江戸の古賀侗庵の門に入り儒学を修め、弘化三年（一八四六）藩命により広瀬元恭・緒方洪庵・伊東玄朴に医学・洋学を学ぶ。嘉永元年（一八四八）長崎に転学し、以後は蒸気船の建造に携わった。慶応三年（一八六七）パリ万国博覧会のために渡仏。維新後は兵部少丞として海軍創設に尽力し、ついでイタリア・オーストリア公使となる。明治二十年（一八八七）博愛社を日本赤十字社と改称し、その初代社長に就任。大蔵卿・元老院議長・枢密顧問官など要職を歴任し、農商務相を務める。明治二十年子爵、明治二十八年伯爵に陞爵。明治三十五年（一九〇二）急性肺炎で病没。

掲出書は昭和四十一年に外務省図書館より寄贈されたうちの一冊。

「佐野常民図書之記」(38)

『西洋経済小学』(XIII—七一—〇〇—一)



三条西家

公家。藤原北家閑院宮流三条家の庶流正親町三条家の庶流で、内大臣実継の次男公時を祖とする。家格は大臣家。内々の家。香道を以て朝廷に仕え、四箇の大事・有識故実・和歌を家職とする。西三条とも称した。室町中期の実隆・公条・実枝三代は古今伝授の継承者として重んぜられた。江戸時代の家禄は五百二石。幕末の季知は尊攘派の公家として活躍した。明治十七年（一八八四）公允のとき、授爵内規により伯爵を授けられた。その養嗣子に迎えられた実義（一八六六一九五〇）は京都生まれ。大正十一年（一九二二）神宮大宮司に任ぜられ、昭和十五年の退職まで宇治山田の官舎に住まう。従二位。伝来の蔵書の多くは昭和二十一年（一九四六）からの数年間にいくつかの書肆を経て諸方に分散した。

「伊勢宇治三条西家」（37）

『織仁親王行実』（X-15-1-f-1-17）



尚寅（一八六六—一九〇五）

明治期の琉球王族。慶応二年（一八六六）琉球王尚泰の次男として生まれる。童名は思樽金。宜野湾王子朝広と称す。

明治八年（一八七五）宜野湾間切を賜わり宜野湾御殿を創立。明治十二年、廃藩置県により上京、明治二十九年に男爵を授爵。漢籍に精通し音楽を能くし書道にも堪能であった。明治三十八年（一九〇五）没。

「宜野湾御殿」（67）

『論語』（三二〇—三二一）



竹屋光棣（一七八一—一八三七）

江戸時代後期の公卿。安永十年（一七八一）准大臣広橋伊光の次男に生まれる。本姓は藤原。初め広橋氏。名は光棣。天明四年（一七八四）左衛門佐竹屋勝孟の養嗣となり、寛政三年（一七九一）元服、右兵衛佐に任ぜられる。病気がちであったが碩学で、有識故実に精通し、和歌を能くした。天保八年（一八三七）没。従三位。墓は本能寺竜雲院。

竹屋家は、藤原氏北家日野家流広橋家の庶流。室町時代中頃、権大納言仲光の三男右衛督兼俊が祖。一時中絶ののち江戸時代初期に再興した。家職は儒道・插花。家格は名家、旧家。外様の家。近衛家の家礼。江戸時代の家禄は百八十石。明治十七年（一八八四）光昭のときに子爵となる。菩提所は黒谷竜光院。

「竹屋藏書」(22)

『古今著聞集』(VII-21D-110)



中御門宣衡（一五九〇―一六四二）

江戸時代初期の公卿。天正十八年（一五九〇）中御門資胤の男に生まれる。本姓は藤原。名は宣隆・宣衡・成良・尚良。右大弁、藏人頭を経て慶長十八年（一六一三）参議。正二位権大納言に至る。寛永六年（一六二九）後水尾上皇院執権。寛永十八年（一六四一）没。

中御門家は、藤原氏北家勧修寺流甘露寺家の支流。坊城中納言経俊の四男経継が祖。家格は名家。内々の家。家職は儒学・有識故実。二条家の家礼。江戸時代の家禄は二百石。明治十七年（一八八四）経明のとき伯爵を授けられ、明治二十一年経之の勲功により侯爵に陞る。菩提所は百万遍知恩院。

「衡」(18)

『大方広円觉略疏注経』(二一C一b一―二)



野宮家

公家。藤原氏北家花山院流花山院家の支流。左大臣花山院定熙の孫定逸が勅旨を以て一家を起つ。家格は羽林家。新家。内々の家。家職は有識故実。一条家の家礼。江戸時代の家禄は百五十石。三代定基は江戸時代を代表する有識故実家として著名。明治十七年（一八八四）定毅のとき子爵を授けられる。菩提所は廬山寺。

野々宮家に伝来した書籍群は大正八年（一九一九）と昭和十年（一九三五）に宮内省図書寮に移管され、宮内庁書陵部に現存。

「野宮書印」（29）

『厚顔抄』（Ⅶ-21K1b7九）

* 『歴代君臣図像』（31A1h1六）



東坊城家

公家。菅原氏の一流。五条家の庶流。菅原参議長経の二男茂長が祖。家格は半家。外様の家。一条家の家礼。江戸時代の家禄は三百一石。家職は紀伝道および詩文。代々儒道を以て奉仕した家で少納言・大内記・大学頭・文章博士を経て正二位権大納言に至るのが通例であった。明治十七年（一八八四）徳長のとき子爵。菩提所は浄福寺。

「紀伝世家」(52)
「東坊城」(51)
「東坊城蔵書記」(36)

『周易』(三―A―a―一二)
『広韻』(XI―二―一〇)
『周易』(三―A―a―一二)

舟橋家

公家。清原氏の嫡流。船橋とも。初め高倉と称した。室町時代後期の宣賢（一四七五・一五五〇）の頃より舟橋家とも称したが、宣賢の玄孫秀賢（一五七五・一六一四）が舟橋と改姓した。家格は半家。外様の家。明経道の家柄で、代々儒道家職とする。当主は明経博士となり、主水正・少納言・侍従を経て非参議に進むのを例とした。近衛家の家礼。江戸時代の家禄は四百石。菩提所は嵯峨車折神社。明治十七年（一八八四）遂賢のときに子爵を授けられる。伝世の典籍・文書の一部が京都大学附属図書館に収蔵されている。

秀賢は、学才があり、徳川家康の命を受けて古書の収集に努め、後陽成・後水尾両天皇に侍読として仕えた。

「船橋藏書」「天師明経儒」は舟橋家の藏書印。「東」印は宣賢の所用とされるが、孫の枝賢（一五二〇・一五九〇）襲用か。



「枝賢」(25)

「清原秀賢」(24)

『論語集解』(二一C-a-四)

* 『中庸章句』(三一A-a-一七)

『職原抄』(三二A-ii-三)

『職原抄』(三二A-ii-四)

『職原抄』(三一A-ii-四)*



「船橋藏書」(33)



「天師明經儒」(52)



「東」(16)
□(27)



* *

「古文孝經」(一C一四)

「中庸章句」(三A一七)

「中庸章句」(三A一七)

「職原抄」(三A一三)

「職原抄」(三A一四)

「職原抄」(三A一四)*

「論語集解」(一C四一)

「職原抄」(三A一三)



六条家

公家。村上源氏の一流、久我家の支流。太政大臣久我通光の五男通有を始祖とする。家格は羽林家。家職は有識故実。江戸時代の家禄は二百六十五石。明治十七年（一八八四）有熙のとき子爵。菩提所は百万遍源光院。

〔六条家藏書〕（32）

『魁本大字諸儒箋解古文真宝後集』（三十一―六）

* 『六条家日記』（三十一―二七）